

INFORMATION

公開同朋会ご案内

日 7月13日(土)

於 徳泉寺本堂

13時 勤行

住職法話

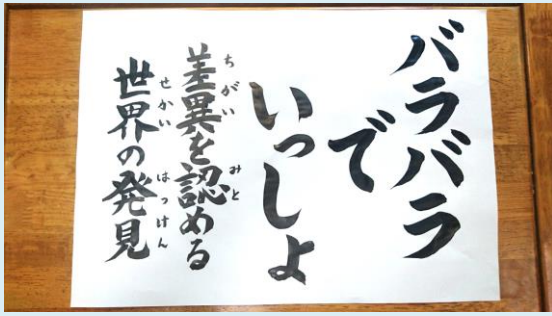
前住職法話

15時 茶話

持ち物 数珠・勤行本

月に一度開催している同朋会を広く公開して行います。住職法話は「前住職法話は」を予定しています。お気軽にお越しください。

今月のことば



蓮如上人 500 回御遠忌 (平成 10 年) テーマ。みんな状況も生活も思っていることも様々で同じ人なんて一人もいないけど、いっしょと言える世界がある。そういう世界っていいなと思う。

境内の花々



同朋会コーナー
住職法話抜粋『根本(こんほん)法名』

先月、法名についてお話しさせていただきましたが今月はその続きです。戒律を守ることを約束したものが「戒名」なのに対し、真宗では「法名」だという話をしましたが、そもそも「戒名」も「法名」の一つです。そして真宗では「私は戒律を守りきれない」という自覚に立ち、仏教に自分を、人生を、生き方をたずねていく者の名のりとして法名をいただくのです。それでは法名はどなたもつけなければいけないのでしょうか。

実は真宗には「根本法名」があります。これは既にすべての衆生を救いたいと願われた阿弥陀如来によってつけられた名のりです。それがなにか、というと「南無阿弥陀仏」なのです。私たちは自分で名乗らなくとも既に阿弥陀の願いによって「根本法名」をいただいております。仏法の願いが届けられた存在なのだ、仏法に教え導かれ救われる存在なのだと約束されているのです。

前住職法話一部抜粋『談合(だんごう)せよ』より

私たちは孤独が一番辛い。周りには人がいて、家族がいて、友人もいる。それでもなにか虚しい、はつきりしない、そんなことがあります。仏教では「帰依三宝の誓い」があります。三宝とは「仏・法・僧」のこと。「仏」は悟りを開いた者、「法」はその教え、そして「僧」はその教えを生きる人。教えに依って生かされている人がいなければ、仏も法もいきません。そして、同じ教えを拠(よ)り所にして一つになっただけの仲間、同朋がいることが孤独から救われる生き方でもあります。

私たちはまた、自分の都合の良いように話を聞いて勝手な解釈をしてしまいます。だから蓮如上人は「談合せよ」と言われました。私たちは共に仏法を生きる同朋として語り合うことで、孤独や自分勝手な自我を抱えた自分自身に気づいていくことができるのです。

『徳泉寺報』後記
畑へ行こう!と張り切って子ども会を開催していますが、週末のたびに雨が降り、なかなか思うようにいきません。勝手な自分の思いも自然の前には無力です。